

## 文科省支援プログラム2件の成果報告

文科省の支援プログラムとして、東京農大が平成18年度から実施してきた2つの取り組みが3年間の事業期間を終えて、それぞれの成果報告会が行われた。地域環境科学部森林総合科学科・宮林茂幸教授らによる「多摩川源流域における地域再生と農環境教育」と、短期大学部部長・藤垣順三教授らによる「学生主導型体験学習が拓くキャリアデザイン」だ。ともに貴重な成果を挙げて、これを土台に新たな展開が期待される。

### 現代 GP 多摩川源流大学による地域再生

多摩川源流域の地域再生の取り組みは、「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム（現代GP）」として実施された。成果報告会は1月31日、東京農大百周年記念講堂で開催され、約300人が参加した。活動実施概要の報告のあと、「多摩川源流大学における今後の発展の可能性」と題するシンポジウムが行なわれた。

この取り組みは、学生たちに農山村（源流域）の農林業などを体験させることを通じて、地域再生に役立つ人材育成を目的に企画された。東京農大と山梨県小菅村との連携協力のもと、平成19年5月、旧・小菅小学校白沢分校を利用して「多摩川源流大学」を開校、幅広い活動を展開してきた。

学生たちは、森林体験、農業体験などのコースに分かれて、地域住民と触れ合いながら、学習した。また、全学部共通科目として特別講義「源流域で源流学を学

ぶ」が開講され、エクステンションセンターによる社会人向けの「環境体験学習」も実施された。

宮林教授は「学生たちは、単なる『知識』ではなく、農山村に生きるための数々の『知恵』を学んだ」などと、その成果を報告した。



活動実施報告を行なう宮林教授

### 特色 GP 学生自身によるキャリアデザイン

学生のキャリアデザインに関する取り組みは、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」として展開されてきた。その成果報告のフォーラムは1月24日、東京農大百周年記念講堂で開催され、約800人が参加した。短期大学部4学科（生物生産技術学科、環境緑地学科、醸造学科、栄養学科）の学生らが体験実習の報

告を行ない、「インターンシップの将来像」についてのシンポジウムが行なわれた。

短期大学部では、学内の実習教育だけでなく、実際の生産現場で体験する実習を実践しているが、新たな取り組みは、それを拡充して、一層のキャリアデザインを構築することを狙いに実施された。

体験実習は、事前に先輩たちの実習体験報告を聞き、自分の希望先をイメージ・決定し、受け入れ先とコミュニケーションを図ることにした。また実習後には、実習先の評価だけでなく、自らを評価し、その相違を確かめ、実習報告書を作成し実習体験を後輩に伝えるようにした。

藤垣教授は、「この取り組みで、学生の学習意欲が高まり、自分の将来を見据える良い機会になった。また、教員と受け入れ側との交流が一層促進された」などと、その成果を総括した。



シンポジウムにパネリストとして参加した学生たち